

2025-26 RIテーマ

**UNITE
FOR
GOOD**

よいことのために
手を取りあおう

WEEKLY

Rotary



Club of Toyohashi

RI D2760

2025-26 クラブテーマ

「話があり、和をもち、
そこに大きな輪をまわそう」
～心を耕し、心に種をまき、奉仕の花を
皆の心に咲かせよう～



1950年8月10日創立

第3回クラブフォーラム「職業奉仕」

職業奉仕委員会担当

フォーラムテーマ「会員同士で集い学ぶ!～四つのテストと職業奉仕～」

フォーラム主催者挨拶

伊藤 晴康 R情報・ラーニング副委員長



クラブフォーラムは「クラブ討論会」とも言います。『これだけは知っておきたい「ロータリーの基礎」』によると、クラブフォーラムは、奉仕理念やクラブ管理、運営、委員会活動などの問題点について自由に意見を述べ合う討論会であり、コトの白黒をつけたり、あえて結論を導き出す必要はありません。また、なるべく多くの会員からの発言を促し、本来の討論会にする配慮が必要であり、小グループに分けて自由に発言する「バズ方式」が望まれるとされています。また「ロータリー読本」によると、会員にロータリー情報を徹底せしめるために随時開催されるもので、ロータリー情報に精通した会員をリーダーとして自由討論をする会合であるとされています。

これらの趣旨に合うように、本日は小グループに分けて自由に発言するバズ方式で行いたいと思います。参加者の皆さまの活発な発言を期待いたします。

フォーラムリーダー主旨説明 豊田 正博 職業奉仕委員長



本日は「四つのテストと職業奉仕」と題して、皆さまに職業奉仕について議論していただきたいと思います。皆さまのご意見は、地区の職業奉仕委員会で示された「四つのテスト」と職業奉仕の資料を基にしたものでも、事前にお配りしたアンケートに基づいたものでも構いません。あらかじめ各テーブルで発言者を決めていただき、ディスカッションのまとめを代表の方に発表していただきたいと思います。意見の集約でなくとも、発言者の方の感想でも構いませんので自由に発言をしていただきたいと思います。

「四つのテスト」の気づき

上村 哲司 会員



私自身「四つのテスト」について以前は意識しておらず、ロータリーに入ってから意識するようになりましたが、皆さまのお話を聞いていて、家族や会社、社会は突き詰めていくと、「四つのテスト」という部分を満たしていかないとうまく回らないということを感じました。ロータリーという団体というのは、経済目的だけではなく、もっと大きな

意味で活動して、社会の役に立っていくことが必要だと改めて感じました。今後、私もロータリーの考え方を得ながら活動をしていきたいと思いました。

「真実」や「事実」に基づいて行動を! 清田 利也 会員



社会に奉仕していくためには何が重要かについて、とにかく地域のお客様や東三河のために貢献したいという気持ちが奉仕につながるという話や、とにかく社会のために行動するという誠意や志がないと奉仕にならず、そのためにはお金が必要だということから話が始まりました。このクラブにも様々な職業の方が集まっていますが、それぞれの職業によって何が重要かは異なります。自分の利益にはなくても、やはり世のため人のために貢献することが職業奉仕につながっていくという話になりました。

迷うことは当然あると思いますが、その時は「四つのテスト」を紐解いて、一つ一つクリアしていくしかないと思います。我が社は警備会社ですが「真実性」と「公平性」については常に念頭に入れて仕事をしています。社会的信用が不可欠な事業のため、真実や事実に基づいて行動することが大前提であり、隠蔽や虚偽はお客様の信頼を失い、奉仕するために必要なお金を稼ぐことができなくなってしまいます。そういったことを繰り返しながら、職業奉仕を果たしていくという見解です。

利益よりも社会の役に立つことを! 小笠原 貴洋 会員



様々な職業の方がお見えになりますが、総じて言われたのが、自分の利益よりもまず相手の立場に立ち、それを喜びとして業務につなげることが大前提だということです。職業倫理の中で、相手にとって最善であることが職業人としてもロータリアンとしても望まれるのではないかと思います。

私は恥ずかしながら「四つのテスト」についてあまり意識したことはありませんでしたが、皆さまの意見を聞いていると、特に意識して活動をしなくても結論的に「四つのテスト」の考え方に結びつくのではないかと感じました。特定の方の利益ではなくて多くの人の利益になるような活動。平等というよりも個性に応じてその人に合った役割を果たしていただく。できる範囲で期待に応えていくが「ノー」と言える勇気を持つこと。という

ように、やはり利益よりも社会の役に立つことを考えていくと、最終的には「四つのテスト」に行き着く部分があるのではないかと思います。

私自身、マイナーな業種なので、繁栄するために実践したいことについては難しいですが、正しい仕事を正しくやっていたら、結果として最終的に結びつくのではないかと思います。

正しいことを正しく実践できる会社を！ 桃井 直人 会員



私は、議論をする前に社会に奉仕していくために必要なのは、相手を思いやり自己満足に陥らないことだと思っていましたが、皆さまとお話する中で、地域に貢献するためには、まず地域について知ることが大切だと感じました。

私は普段の仕事の中で「四つのテスト」について意識することはなかなかありませんでした。我々は損害保険業なので保険を通じてお客様をお守りするというのはもちろんですが、現在、自治体の方々と協議をして地域の防災意識を高める活動も積極的に行っています。これからは「四つのテスト」を意識した行動をしていきたいと思っています。

これから社会に貢献し、繁栄するために実践したいことは、個人のためだけではなく、他人のため、地域のため、そして社会のためにすることです。2、3年前に当社では様々なことが顕在化したので、正しいことを正しく徹底的に実行できるような会社でありたいと思います。また、これからも感謝の気持ちであふれる職場にするために行動していきたいです。

企業人として成功した上で奉仕を！ 伊藤 健一 会員



自分に本当に余裕がないと、奉仕はできないと思っています。私は、補助やお金をいただきながら、ボランティアだけに精を出すことは本当の奉仕ではないと思っています。ロータリアン

は企業人として成功した上で、奉仕を行っています。これは素晴らしい姿だと思います。

ある会員の方は「四つのテスト」について、災害時のインフラ整備について書かれていました。私の商売は農業ですが、どんな時でも食料を作らなければいけないと思っています。実は私自身「四つのテスト」について、未だに分かっていない部分もあります。しかし、今回このフォーラムで、皆さまが職業奉仕について意識されていることが分かり、本当に驚きました。

患者の感謝の言葉と笑顔が一番！ 平松 和洋 会員



私は公立病院という公立の仕事なので、奉仕の話をする土台が違うかもしれません。私たちは、お金儲けというより、奉仕だけをしているような組織で、長い間赤字でやっています。で

は、奉仕とは何かと考えたときに、一番最後に思ったのは、例えば患者さんの病気が治って「先生ありがとね」と言って帰ってくれる、その笑顔だけで十分ではないかと思っています。

信頼関係を築き価値を提供！

中田 昌宏 会員



社会に奉仕していくために必要なことは、やはり相手の立場に立ち、その人や社会が本当に必要としていることは何かを考え続ける姿勢だと思います。一方的な善意ではなく、相手の声

に耳を傾け、信頼関係を築きながら自らの専門性を通じて価値を提供していくことで、結果として真の社会奉仕につながっていくのではないかとこのことを皆で話し合いました。ロータリアンだからこそトップから社会全体をステークホルダーと捉えて、会社全体に伝え続けることが大切だという話になりました。

これまでに企業経営の中で「四つのテスト」を意識したことはありませんでしたが、その話の中である方の会社では、この「四つのテスト」を企業理念としているそうです。私たちのテーブルでは、改めて「四つのテスト」の大切さに気づけたことがこのフォーラムの大きな意義だったという結論になりました。

アドバイザー纏め

松坂 良太 会員



まず始めに上村会員は、「四つのテスト」のお話から始まり、経済目的だけでなく、社会に対することについてまとめていただきました。清田会員は、それぞれの職種によって「四つの

テスト」の捉え方が違うというお話をしていただきました。最後に、豊橋の安心・安全は俺に任せると言っていただき、非常に心強く思いました。小笠原会員は、専門職という立場からお話ししていただきました。桃井会員は、地域に貢献するためには、しっかりと地域を知らなければいけないというお話をしていただきました。伊藤会員は、自分に余裕がなければ奉仕はできないというお話をしていただき、これは二宮尊徳さんのお話にもつながってくると思います。平松会員は、プロフェッショナルの立場からお話をしていただきました。最後に、中田会員には、上手く全体をまとめていただきました。相手の立場に立つというようなことから、専門的なお話も聞かせていただきました。

私は司法書士の資格を取って研修を始めた頃に、大先輩から「プロフェッションとは」という話を何度も聞かされました。首都大学東京（現東京都立大学）法学部の石村善助さんという法学者がいらっしゃいます。この方の文章の中に「学識に裏付けられ、それ自身一定の基礎理論を持った特殊的技能を、特殊な教育または訓練によって習得し、それに基づいて個々の依頼者の具体的要求に応じて具体的奉仕活動を行い、よって、社会全体の利益のために尽くす職業である」というものがありま

す。この石村先生の言葉の中には「倫理」という言葉が入っていませんが、私は「倫理」という言葉と「奉仕」という言葉が、仕事をする中でどのように関わっていくかということが長い間心の中に残っていました。今回、この話をまた思い出させていただき良い機会を与えていただき、ありがとうございました。

お礼の挨拶

豊田 正博 職業奉仕委員長

本日は「四つのテストと職業奉仕」ということで、本当に難しいテーマだったと思いますが、皆さまのおかげで良い例会になりました。ありがとうございました。

フォーラム主催者締め挨拶

伊藤 晴康 R情報・ラーニング副委員長

発言をされた皆さま、松坂アドバイザー、豊田フォーラムリーダーありがとうございました。最初に申し上げた趣旨のとおり、活発な発言があって良いフォーラムになったのではないかと思います。次回も楽しみにしていただければと思います。

会長挨拶

井川 和英 会長



「春夏秋冬 二升五合」という言葉遊びがあります。「春夏秋冬」には「秋」がないので「商い」。「二升」は升が2つなので「ますます」。「五合」は一升の半分なので「半升（はんじょう）」で「繁盛」という語呂合わせになっており、「春夏秋冬二升五合」は「商い ますます商売繁盛」という意味を表しています。「商い」の語源は「秋なふ（う）」だそうです。「なふ」は「行（な）ふ」という意味で、秋に採れた農産物を物々交換していたことが由来だそうです。

数年前にコロナが収まり、ますます繁盛に近い状態になったにもかかわらず、ここへ来て原油高と原料高、そして円安のトリプルパンチが続いています。ある苦境の精肉業者の社長がこのようにことを言われました。

『「大変」という字は「大きく変わる」と書きます。だから知恵と工夫で難路を開いて、泣き言を言っている暇があったら、まず動いてみろ』したたかな商人の心意気がそこにはありました。また、「商い」と言う言葉は、「飽きちゃう」といった言葉にもつながると言われています。店主の心が折れてしまわないように、春夏秋冬、1年を通して物を買っていったらどうかと思います。

本日の職業奉仕のフォーラムが良いものになることを期待しています。

会長報告

- 公益財団法人ロータリー米山記念奨学会より「米山功労者感謝状」が届きました。
植村 忠慶 会員、岡田 直樹 会員、笠原 元樹 会員、西島 豊 会員

幹事報告

山本 貴浩 幹事

- 次週2月5日は、休会となります。

ニコニコBOX

福井 敬 ニコニコ委員

- 豊田正博職業奉仕委員長、本日のフォーラムよろしくお願いたします
井川 和英 会長 山本 貴浩 幹事
- フォーラム主催者の代行を務めます。よろしくお願いたします
伊藤 晴康 R情報・ラーニング副委員長
- 本日のフォーラムを担当させていただきます。皆さまよろしくお願いたします
豊田 正博 職業奉仕委員長
- フォーラムのアドバイザーを仰せつかりました。よろしくお願いたします
松坂 良太 会員
- 本日の豊田正博職業奉仕委員長のフォーラム楽しみにしております
久保田 充三 伊藤 健一 各会員
- 市民、町民のために活動している出来事が新聞社2社に掲載されました。皆さんにもお力をお借りしたいです
伊藤 健一 会員
(順不同)

お誕生日おめでとうございます

福井 敬 会員(2月4日生)
河合 珠美 会員(2月4日生)
神野 紀郎 会員(2月11日生)

歌

ソングリーダー 佐藤 裕彦 会員

「北風小僧の寒太郎」

ビジター

豊橋北RC	3名
豊橋南RC	1名
豊橋ゴールデンRC	2名
計	6名

出席報告

山本 貴浩 幹事

当日出席者	55名	計算会員数	88名中33名欠席
総会員数	110名	出席率	62.50%

例会予定

次回のプログラム

2月12日(木) インターアクト卒業生を送る会

- 2月19日(木) 卓話「多文化共生とロータリー」
- 2月26日(木) ●クラブ・フォーラム「国際奉仕」(夜間)
- 3月5日(木) 地区出向者報告

写真の閲覧はこちらから▶

事務局：豊橋市花田町石塚42-1 豊橋商工会議所内

